

ぼくのノオト

④1 十年目の原点

「なんでもなくて、よかったね」。高校生になった妹は、二十歳を過ぎた姉にそう言われ、二人で帰っていった。数年前まで姉妹は、親に連れられて甲状腺検査に来ていたのだろう。

十年前に生まれた赤ちゃんは、小学生になっている。小さな子を連れて検診に来た若いお母さんは、原発事故当時、高校生だった。あの時、自分がどこで何をしていたのかさえ覚えがなく、被ばくによる影響、自分の体が心配で、親にも言わず、一人で甲状腺検診に来る若い人もいる。

「安全・安心」。仕組まれた言葉のロジックと、意図された数字のトリックに、今までどれだけ翻弄されてきたことだろう。

なすべきことは、言葉の押し付けではなく、まず不安な気持ちを共有していくこと。それは何年たっても変わらない。



認定NPO法人 いわき放射能市民測定室

たらちねクリニック

院長 藤田 操